

武蔵野市社会資本総合整備計画（武蔵野市第2期下水道計画の推進）
事後評価委員会（第1回）

- 日 時 令和元年10月7日（月曜日） 19時00分～20時00分
- 場 所 武蔵野市役所 西棟4階 412会議室
- 出席委員 A委員、B委員、C委員
- 事務局 環境部長、下水道課長、下水道課職員3名

- 1 開 会
- 2 市挨拶
- 3 出席者紹介
- 4 議 事

(1) 委員長の選出

【事務局】要綱第4条2項に基づき互選により委員長の選出をお願いしたい。

【B委員】A委員を推薦する。

【事務局】委員長をA委員にどの推薦があったが、異議はないか。

【全員】異議なし。

【事務局】委員長はA委員に決定とし、これからの進行は委員長にお願いする。

(2) 委員会の運営事項について

【事務局】会議の公開及び議事録の取扱いについてお諮りしたい。議事録については全文録や要約という形もあるが、平成28年度に行った武蔵野市社会資本総合整備計画事後評価委員会では、要約、匿名（A委員、B委員）といった形での公開を行っている。

【委員長】会議については、公開するということがよいか。議事録については、要約を基本にして、発言者はA委員、B委員というふうに匿名表記をするという形によいか。

【全員】異議なし。

【事務局】了解した。本日は、取扱いが決まっていなかったため、傍聴の案内は行っていないが、次回委員会が開催された場合は、市のホームページで傍聴の案内をさせていただく。

(3) 事後評価委員会の役割について 資料 1

【事務局】社会資本整備総合交付金交付要綱の規定により社会資本整備総合交付金の交付を国から受けた下水道事業について、評価の透明性、客観性及び公正さを確保するため、第三者を交えた事後評価委員会を設置することとしている。また議事に記載のとおり、計画の概要、次に事業の進捗状況と目標の実現状況について事務局より説明し、最終的に、事後評価書（案）に対し意見を求めるものとする。委員会として意見については、評価書に反映の上、公表及び国へ提出する。

(4) 武蔵野市社会資本総合整備計画の概要について

(5) 事業の進捗状況と目標の実現状況について

事務局より計画の概要及び進捗状況について説明 資料 2～資料 10

【委員長】資料 3 について平成 25～27 年度の計画施工延長合計値と資料 2 の当初延長 482m が異なる理由はなぜか。

【事務局】資料 3 の武蔵野市長寿命化計画は平成 24 年度に策定したものであり、記載の施工延長は計画値である。平成 25～27 年度の実績延長は資料 8 のとおり 481.7m である。

【委員長】女子大通り幹線 814m の改築が完了したが、劣化度 I、II の管きよ延長は 4,198m であり、未施工延長が膨大である。今後の再構築計画はあるのか。

【事務局】女子大通り幹線の改築は武蔵野市長寿命化計画に基づき行ったが、今後は下水道ストックマネジメント計画に基づき優先順位を設定しながら老朽化した管きよを改築していく。

【委員長】了解した。

【B 委員】資料 3 で点検した管きよ 47 k m の選定条件はなにか。

【事務局】内径が 800mm を超える全ての管きよを対象としている。

【B 委員】内径が 800mm を超える管きよ以外も点検する計画はあるのか。

【事務局】下水道ストックマネジメント計画に基づき、来年度から全管きよを対象として行う。

【B 委員】期間はどれくらいか。

【事務局】計画では 15 年で全ての管きよを点検する。

【B 委員】改築事業費はどれくらいか。

【事務局】資料 10 のとおり下水道ストックマネジメント計画では令和 2～6 年度の管きよ改築費用を約 17 億円と位置付けている。武蔵野市長寿命

化基本計画では年間約3億の改築事業費で管きよの健全度は一定程度維持できると考えられていたが、その後実施した点検調査結果では老朽化が更に進行していることが判明したため改築事業費を増加せざるをえない現状である。

【C委員】内径が800mmを超える管きよは劣化が進みやすいのか。

【事務局】内径が800mmを超える管きよは劣化が進みやすいという傾向を確認したわけではない。

【C委員】長寿命化基本計画に比べ下水道ストックマネジメント計画では、劣化が進行している管きよの割合は変化しているのか。

【事務局】点検調査の対象となった管きよが異なるため、単純な比較は不可能である。ただ、長寿命化基本計画策定時はコンクリート管の標準耐用年数である50年をまだ迎えていない管きよが多かったが、現在にいたるまでに標準耐用年数を超過している管きよの調査結果のデータが追加されたため、劣化が進行している管きよの割合は大きくなったと考えられる。

【C委員】女子大通り幹線で劣化が進行していた原因は、管きよの形状が大ききボックスカルバートだったからか。

【事務局】女子大通り幹線で劣化が進行していた原因としては、管きよを敷設してから50年近く経過していることに加え、幹線の中でも下流側のため流量が多くコンクリートが腐食したためと考えられる。

【C委員】資料3と資料5では管きよ延長に差があるがなぜか。

【事務局】来年度から公営企業会計に移行するため、固定資産である管きよの延長を改めて整理したところ資料5のとおり314kmと判明したためである。

(6) 事後評価書（案）について

事務局より事後評価（案）について説明 資料11

【B委員】定量的指標の達成状況の指標①について、最終目標と最終実績に差が生じた理由はなにか。

【事務局】当初計画では下水道台帳による延長として814mとしていたが、現地調査を行った結果、810mだったため。

【B委員】目標値と実績値に差が生じた要因という記入欄のため、差が生じた理由を記述すべきでないか。

【事務局】了解した。差が生じた理由を記述する。

【委員長】実績値は減少したが、計画箇所は100%完了したという

ことで良いか。

【事務局】 そのとおりである。

【委員長】 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況に下水道ストックマネジメント計画に関する記述をすべきではないか。

【事務局】 了解した。

【委員長】 資料7より、平成30年度までに下水道ストックマネジメント計画は策定が完了しなかったという意味か。

【事務局】 スtockマネジメント計画のもととなる市の考えを整理した実施方針の策定委託は平成29～30年度で完了した。実施方針を踏まえた計画策定自体に関しては、社会資本総合整備計画の補助金対象ではないが、下水道ストックマネジメント計画策定という一連の事業の流れを資料7で補足説明をするため記載している。

【委員長】 特記事項に関して、下水道ストックマネジメント計画の運用により計画的な維持管理に取り組むことについて記述があった方が良いのではないか。

【事務局】 了解した。特記事項に追記する。

【C委員】 雨水管整備率が96.5%であるが、未整備箇所はどこか。

【事務局】 千川上水沿いの一部である。

【C委員】 いつ雨水管整備率を100%にする計画なのか。

【事務局】 道路整備に合わせた整備となるが、道路整備の計画についてはいつ施工されるか未定であるため雨水管の整備時期も未定である。なお、武蔵野市の下水道普及率は約100%である。

【委員長】 資料4より、既設放流管は撤去せず閉塞するとあるが、老朽管きよの残置は道路陥没の危険性についてはどう考えているか。

【事務局】 既設放流管はセルクリートコンクリートを充填してから閉塞を行うため、道路陥没の危険性は少ないと考えている。

(7) その他（事務連絡）

【事務局】 事後評価書について、今回いただいた意見を踏まえ修正の上、メールで送付するので、確認いただきたい。委員会の了解を得て、評価書を確定させた後、国に提出するとともに、市のホームページで公開する予定である。

5 閉 会